市町村職員等在宅医療・介護連携基礎研修（盛岡会場）	資料13
平成28年11月29日	
長寿社会課　地域包括ケア推進担当	

ターミナルケアの取り組み

山岸和敬荘の現状と課題

1

平成２８年１０月２９日

特別養護老人ホーム　山岸和敬荘
介護リーダー　田中奈緒
介護主任　高橋敏嗣

社会福祉法人　岩手和敬会
特別養護老人ホーム　山岸和敬荘

基本理念

『和敬清寂』

和を尊び、敬うをもって礼節とする、いつわりなく公平・公正・平等に、わび・さびの痛みを感じる心、伝統文化を大切にし豊かな出会いをもって実践とする

沿革

昭和４２年２月１日（定員５０名）開所

昭和５４年４月１日（定員１６０名）に変更

平成９年１０月１日青山和敬荘開所

平成２４年３月３１日（定員６０名）に変更

平成２４年４月１日浅岸和敬荘開所

現在は特養６０床と研究研修センター

施設の現状

- 定員６０名　従来型個室１６室　多床室（２人部屋８室、４人部屋７室）
- 男性１０名女性５０名　平均年齢８６．９歳　平均介護度４．５１
- 職員配置は、施設長１名　事務部２名　介護部２２名　看護部４名　相談部（ケアマネ含）２名　栄養部８名　その他６名。
- １階フロアの利用定員は２７名（個室７、静養室あり、医務室あり）　２階フロアの利用定員は３３名（個室９、静養室なし）。
- 介護職員は基本的にフロア固定（１階９名、２階１３名）でシフトを組んでいる。
- 夜勤は１５時間勤務で１階１名、２階２名の計３名の職員配置。
- 経管栄養の利用者が多く、１階１２名、２階６名の利用者が生活している。
- 看護部はオンコール体制で夜間帯を協力。
- 協力病院は隣接しており、渡り廊下で連結。

山岸和敬荘の看取り介護に関する指針

基本方針

近い将来、死に至ることが予想される利用者が、人生の最後まで当施設で暮らすことを望み願っている場合において、ケアの基本理念である「利用者本位、自己決定」に基づき、利用者及びご家族等の希望を十分に尊重しつつ、ご家族等と職員間の連携協働により、身体的精神的苦痛や苦悩をできるだけ緩和し、心安らかな尊厳のある生活を大切に送ることができるように支援します。

看取り介護の条件、看取り介護の具体的内容、具体的手順は省略

看取りケアの現状

- 現在、看取りケア契約者は１名。家族希望により多床室を利用。
- 平成２７年度は、退所者１６名のうち７名が施設で最後を迎えられました。
- 平成２８年度は退所者１４名中９名の看取りを実施。
- 入所時から定期的に終末期意向事前確認書を使用し、終末期の意向を確認（本人、家族共に精神面で負担にならないように配慮しながら）。家族交流会や担当者会議、面会時等にもコミュニケーションを図り情報を収集している。
- 他職種での情報共有は、日々の申し送りへの全職種参加、連絡帳での情報周知、ケアマネ中心で、週１回のターミナル会議（パソコンでの情報共有含む）。

看取りケアの現状　２

- 家族との連携は、相談員兼ケアマネを中心とした情報交換の他に、家族連絡帳を活用。
- 多床室利用者が看取りケアで個室を希望する場合は、基本的に１階フロアの個室を使用。
- 緊急時は、看護部のオンコール以外に、相談部（ケアマネ）、介護部（役職）も電話連絡で協力体制をとる。
- 看取り後の振り返り（ターミナル会議）。
- 年２回の追悼会の実施（自治会主催）。
- 盆供養、彼岸供養の実施。

看取りケアの課題

①　環境の変化への対応

- 静養室、専用個室が１階のため、フロア移動が必要
- 職員配置がフロア固定のため、提供情報以外の気づきや、家族との連携が薄くなる

②　情報収集の方法

- 入所時の利用者の状況や、家族の関わり度合いにより、情報収集が困難な事例も少なくない

１０６歳のＩさん

和敬荘に９２歳で入所し、１０６歳で看取る（老衰）。長い入所期間で、本人・家族ともに信頼関係が構築できていた。
多床室での看取りを希望され、当日の昼食まで自分で食べ、意見を伝えることができていた。午後２時頃、お部屋で静かに亡くなられた。

８２歳のＯさん

和敬荘に今年初めに入所。癌の既往あり。食が細く、静かな性格。２階フロアの多床室で生活。癌の症状は見られず、入所時に看取りという認識はなかった。食事はゆっくり自分で食べ、好きなものだけ食べることが多かった。管理栄養士と協力し、食事面での工夫をすることで表情も良くなり意欲も向上し食事量も少しずつ増えていった。家族の面会は仕事の都合もあり多くはなかった。
２ヶ月前に腹部と下肢が腫れ通院すると腹水が溜まり一刻をあらそう状況との診断がでて、主治医と家族とで相談し看取り契約を結んだ。同時に緊急時の対応で絶食と点滴を実施することも決まった。家族の希望で個室を利用することとなり、１階に居室移動となった。

看取りケアの課題

③　ターミナル会議と他職種連携のあり方

- パソコン上での情報共有での課題

④　人材育成、新人教育との連動

- 人材育成は、能力に応じ個別に実施
- 内部研修の充実と外部研修の積極的参加
- ＯＪＴの充実

まとめ

多くの看取りケアを実施して、看取った後に振り返えると、「利用者に向き合い、一生懸命取り組んで、家族・他職種で連携し最後まで頑張った」と思うと同時に「本当にこの関わりが良かったのかな」と思い考えることがほとんどです。そして１つの看取りが終わると共に、我々も何かを学び、看取り介護の幅や質が少しずつ成長している実感もあります。

しかし、新たな課題も多く、情報収集の困難な事例の対応や他職種間連携のあり方、個別の人材育成を行っている現状での、看取りケア環境と人材育成とを連動させるシステムの構築は早急に取り組んで行きたいと考えています。